

令和7年度 SSH 生徒研究発表会 参加報告

期日：令和7年8月5日(火)～8月7日(木)

場所：神戸国際展示場(兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目1-1)

報告レポート

8月5日(火) 事前準備日

前日、名古屋サイエンスツアーで名古屋大学において発表を終えたばかりのメンバー3人は、午後一番の新幹線で神戸へ。事前準備の会場でポスターを掲示しようと筒を開けると、そこには指導者の先生からの愛に溢れた付箋メッセージが。見事世界一になった3人は、指導者の先生からの最後の粋な計らいを受けて、心底喜んでいるように私には見えた。

8月6日(水) 発表当日

飯山高校の展示ブースはトップバッターで審査が行われた。本当は何人か他校の生徒たちに説明をした後に審査が来ると思っていたに違いない。終わった後に生徒たちは静かに動揺していた。しかし、その後の切り替えの速さは、流石に世界大会を含めて数々の試練を乗り越えた彼女たちであった。ルール上で現物は持ち込めないために、生徒たちはタブレット端末を補助的に用いて MBR がどのようなものであるかを説明し、自分たちの研究を堂々と発表し続けた。審査のない時間は、座席に札を置いて退出しても良いのだが、飯山高校のブースは世界一になった研究を一目見ようと全国各地の高校の生徒たちが集まって常に賑わっていた。それだけ世間から関心の目を向けられていたということである。

私自身も空いている時間に他の高校の展示ブースを少し見てまわったが、純粋に昔ながらの高校生らしい研究内容も散見される一方で、AI やプログラミングを研究ツールに組み込むチームが見られた。自分たちで思いついたものなのだろうか。彼らに聞いてみればよかった。

8月7日(水) 代表校による発表

代表校による発表ののちに審査結果発表に。発表する生徒たちは心底楽しそうにプレゼンを行っていた。本年度の1位に輝いたのは小学校の頃からずっと続けてきた野生生物の観察を行っていた生徒の個人研究を課題研究に昇華させた研究であった。また、蛍の明滅周期をテレビ局の協力も得ながら全国で調査研究を行ったチームの研究、さらには彗星を観測するために全天を捉えるカメラを自作し、さらに自動追尾して観察、記録した上で、人工衛星と見分けて3D マッピングを行うソフトを自作してしまったチームの研究も入賞した。これらの研究に共通するのは、継続的な調査や、新しい手法を活かしながら研究を進める先進性であると感じた。「高校生の課題研究にそこまでやるのか」と思う一方で、高校生という小さな枠を飛び越えて人を育てる視点こそ、もしかしたら次世代の教育には必要なかもしれないと感じた。



おわりに

1番になることが人生の目的なら、1番になれない多くの者は不幸になってしまう。そうではなくて、「なぜ?」、「何とかしたい!」、「面白い!」このような純粋な動機こそ、研究活動の根源ではないだろうか。実は今回の夕飯時に神戸ハーバーランドに連れて行って、少しの間散策させた。安全に神戸の夜を彼女たちが楽しめそうな場所だと考えたからである。研究を頑張って世界一にまでなった彼女たちが、普通の高校生としてピリオドを打てることを個人的には嬉しく思う。集合予定時刻をオーバーしてまで乗った観覧車からの夜景の向こうに3人だけのワクワクが見えただろうか。それぞれの進路で新たな探究の旅を再開してくれることを心の底から祈っている。